

南越稲作情報（H22版） No1

— 水稲管理について、生育は緩慢 —

丹南農林総合事務所 農業経営支援部

1 稲の生育について

- ・5月中旬の低温、低日射および、5月下旬の日照不足により生育が初期の分けつが発生が遅く、生育が緩慢となっています。
- ・5月中下旬に降雨が続き、水田が深水となっていたところでは、草丈が伸びています。

2 水稲管理について

- ・草丈が伸びている圃場では浅水管理にしてください。
- ・晴れた日は浅水管理を行い、地温を上げ、早期分けつ確保に心がけましょう。
- ・補植用苗はいもち病の発生源となるため、早急に取り除きましょう。
- ・いもち病の予防粒剤(箱施薬)をしていない移植水田や直播水田では6月10日までに予防粒剤を(オリゼメート粒、オリブライト粒など)を散布しましょう。

3 雑草対策について

- ・雑草が残っている場合は草種により除草剤を選択して除草を徹底しましょう。

例 ヒエ クリンチャー
広葉 バサグラン

- * 除草剤の散布は農薬使用基準に従って散布しましょう。
- * 特別栽培米生産圃場では栽培計画内容を確認してから散布を行ってください。

4 畦畔除草と大麦刈り取り後圃場の耕うんについて

- ・斑点米カメムシの発生を抑制するために、大麦刈り取り後耕うん(除草)を行いましょう。
- ・畦畔除草は6/20頃、7/4頃に行い、ハナエチゼンの出穂間近の除草(7/10以降の除草)はやめましょう。